

# 経営比較分析表（令和2年度決算）

佐賀県 唐津市

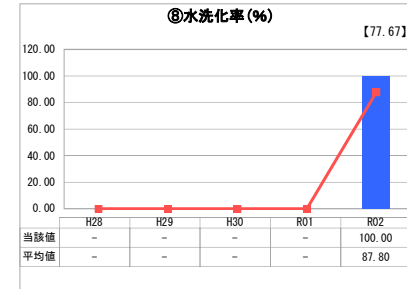
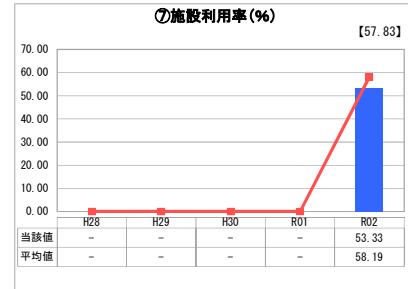
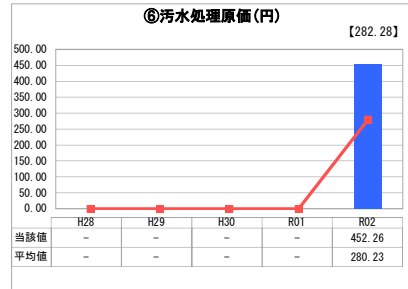
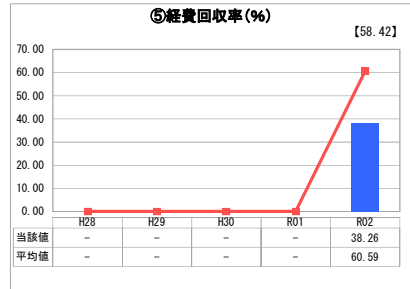
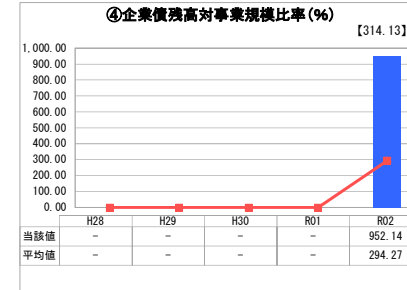
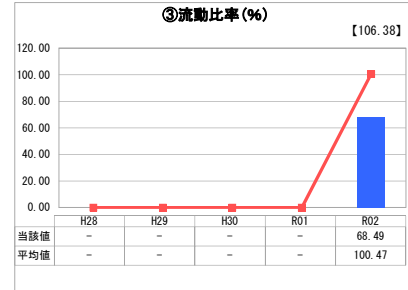
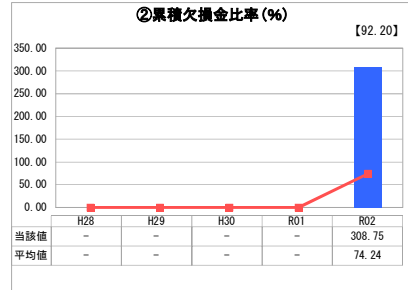
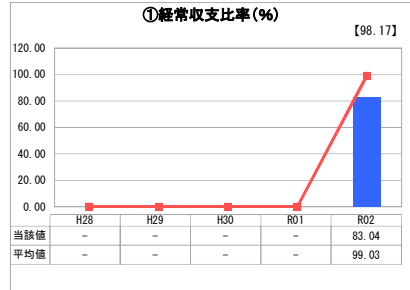
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	特定地域生活排水処理	K2	非設置
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	普及率 (%)	有収率 (%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家産料金 (円)
-	19.46	4.82	100.00	3,300

人口 (人)	面積 (km <sup>2</sup> )	人口密度 (人/km <sup>2</sup> )
119,869	487.60	245.83
処理区域内人口 (人)	処理区域面積 (km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度 (人/km <sup>2</sup> )
5,751	162.95	35.29

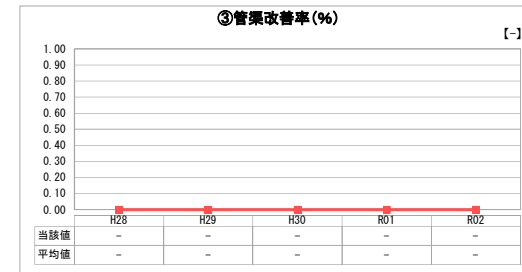
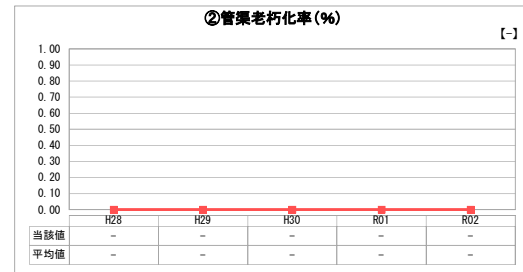
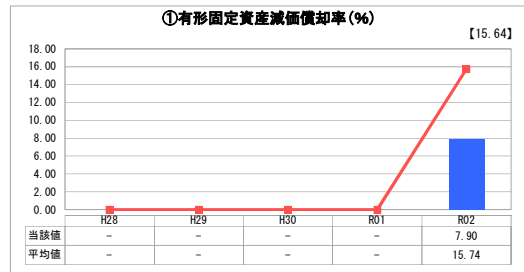
**グラフ凡例**

- 当該団体値 (当該値)
- 類似団体平均値 (平均値)
- 令和2年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

① 収益的収支比率については、100%を下回り、② 累積欠損金の比率が高いことから、赤字経営であると考えられる。  
また、④ 企業債残高対事業規模比率の比率が高いこと、経費回収率が低いことから、固定経費の見直しが必要であると考えられる。  
⑥ 汚水処理原価は平均値よりも高くなっているが、これは年1回の清掃と2ヶ月に1回の点検を実施しているなど、固定経費が掛かっていることやプロア交換などの修繕費用が高まっているためである。

### 2. 老朽化の状況について

個別に設置した浄化槽は個体差があり、経年劣化による不具合（フロアや躯体の劣化等）が生じてきているが、修繕等により随時対応していくこととしている。

## 全体総括

下水道事業の運営にあたり、一般会計からの基準外繰入金により収支のバランスを取っている状況である。  
経費の健全性等を確保するには、下水道使用料の見直しや水洗化の促進による経費回収率の向上が必要不可欠である。令和3年度に、経営戦略を策定中であり、維持管理費などの固定経費の削減や下水道使用料の見直しを検討するなど持続的な経営に向けた対策が必要であると考えられる。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。